④ 川を見下ろす「チャシ」

ユクエピラチャシ跡（陸別町）のある高台。下を流れるのが利別川。

16～18世紀ころ、見晴らしのいい高台の上に「チャシ」が作られました。

チャシとは、高台の地面に１本から数本のみぞ（壕）がめぐらしてあるところで、使われていた時には柵で囲まれていたようです。

何のためにつくられたのかは、はっきりしていませんが、伝説によると、アイヌ民族同士や和人との戦いのための砦、あるいはカムイ(神 →p 134）が舞い遊ぶ場所、見張りのための場所、争いを収めるための話し合い（チャランケ）の場所などに使われたと伝えられているようです。狩りのためではないかという考えもあります。

十勝のチャシ

チャシは、日高地方より東の太平洋側の地方に多くあり、十勝では72ヵ所[※1]のチャシのあと（チャシコッ[※2]）が見つかっています。

十勝のチャシのあとは、海ぞいにも何カ所かありますが、そのほとんどが川ぞいの高台にあります。

十勝川と利別川（とその支流）で多く見られ、一方、音更川には４ヵ所だけ、札内川では全く見つかっていません。

また、十勝川では芽室町より下流部に多く見つかっていますが、利別川では、中流～上流部の本別町・足寄町・陸別町で見られます。

十勝川温泉チャシ跡（音更町）。十勝川ぞいの十勝エコロジーパークにつき出ている。

本別町「シンコチャシ」の伝説

『このチャシはとても見晴らしがよく、この地に侵入する者は、すがたをさらさなければならなかった。

ある夏の日、利別川の上流から、フキの葉がたくさん流れてきた。実は、釧路の戦士たちがフキの茎（つつになっている）をくわえて呼吸しながら水中にもぐり、本別の人たちのウラをかこうとしたのである。

しかし、本別の首長はこれを見破った。ウラをかいたつもりの釧路の戦士たちは、逆に本別の人々に待ちぶせされ、囲まれ、一人を残して全めつしたという』

（本別・清川ネウサルモンさんの話＝目黒治助氏記録
＝『改訂増補 アイヌ伝承と砦』より、意訳・改変）

シンコチャシ跡（本別町）のある丘。下を流れているのは利別川。

※1　72ヵ所のチャシのあと：北海道教育委員会に登載されている数。すでに完全にこわされていたり、伝承などはあっても場所が確認できなかったりするものをふくめると、およそ80ヵ所となる。

※2　チャシコッ：「チャシのあと」という意味で、地名にもなっている。豊頃町にある安骨（あんこつ）は、もとは「チャシコッ」に当てられた文字だったのが、あとで読み方が変わったもの。もちろん安骨にもチャシ跡があり、「安骨チャシ跡」という。ただし、

利別川が見わたせる高台 … 陸別のユクエピラチャシ跡（国指定の史跡）

陸別町の高台には「ユクエピラチャシ」のあとがあります。16世紀中ごろつくられたと考えられています。

利別川を見下ろすガケの上に、みぞ（壕）がかなり深くほってあります。みぞに囲まれた場所（郭）が3ヵ所あります。

今でもかなり広いチャシあとなのですが、もともとチャシがつくられた時には、今ほどガケがくずれておらず、もっと川の方に広がっていました。

当時としては、大きな工事だったようです。

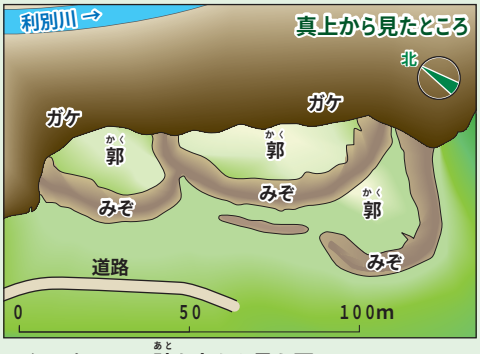
また、みぞをほった時に出た大量の土は、みぞの外側に盛られていました。

盛られた土の一番上には、白い火山灰※3が積まれています。できた当時には、チャシの外側がはば広く（18m以上）白くなっていて、かなり美しいチャシだったことでしょう。

「ユクエピラ」とは、「シカ・食べる・ガケ」の意味です。発掘調査では、多くのシカ（アイヌ語で「ユㇰ」）の骨が見つかっています。

ユクエピラチャシ跡。公園整備がおこなわれている。みぞやガケでケガをしないように。

ユクエピラチャシ跡の位置。
陸別町字トマム2番地2



ユクエピラチャシ跡を上から見た図。
（参考：『史跡ユクエピラチャシ跡発掘調査概要報告書』）

ていねいにつくられたチャシ … ユクエピラチャシの特ちょう

ユクエピラチャシ跡から見下ろす利別川。

盛った土の断面。色ちがいの火山灰が交互に積まれている。

（写真：陸別町教育委員会蔵）

利別川を見下ろそう

昔とは流れが変わっていますが、今でも利別川を見下ろすことができます。サケなどがのぼってきた時、あるいは、よその人（敵かも知れない）がやってきた時、すぐわかる場所だったようです。（ガケに近づきすぎないように）

かなりの手間がかけられている

土を盛ったところを調べてみると、白色とオレンジ色の火山灰※3がたがいちがいに積み重ねてありました。かなり計画的に、手間をかけてつくられています。

たくさんのシカ（ユㇰ）の骨

たくさん見つかったシカの骨は、単なるゴミとして捨てられたのではありません。自然のめぐみはカムイ（神：→p134）からいただいたものです。アイヌの人たちは、カムイへの感謝と願いをこめて、その霊をカムイの国に返すという気持ちを持っていたのです。（→「捨てる場所」p94）

もともとの意味からすると「安骨チャシ跡」だと「チャシ跡・チャシ跡」となってしまう。

※3　火山灰（かざんばい）：火山からふき出したもので、マグマ（地下にあるとけた岩石）が粉々にくだけたもの。木や紙などが燃えてできる灰とは異なる。地質学では直径2㎜～1/64㎜のものをいう。どの火山のいつのものかによってちがいがある。（→p58～61）